

「聖戦」と国民

生きて虜囚の辱めを受けず

その2

2006.3.25

札幌たのしい授業・研究サークル用レポート

仮説実験授業研究会・北海道

丸山秀一

前回の話

大東亜戦争での日本兵捕虜は、諸外国と比較して異常に少ない数でした。たしかに「捕虜の禁止」を心構えとして説く「戦陣訓」はありましたが、それは法令のような効力を持つものではありませんでした。

日本軍は、徴兵制度により成り立っていました。その制度は「まじめな貧乏人だけが損をする」という不平等なもので、国民は徴兵を忌避しました。

日清日露戦争で、日本は国際条約を守り捕虜を人道的に扱いました。しかし、貧困に苦しむ国民は捕虜を許しませんでした。その世論は、弱い日本軍をごまかそうとする軍部のねらいと重なり、国全体が神懸かりな精神主義に傾きました。「本音とタテマエ」を分離する日本人は、自らそれに束縛されていたのです。

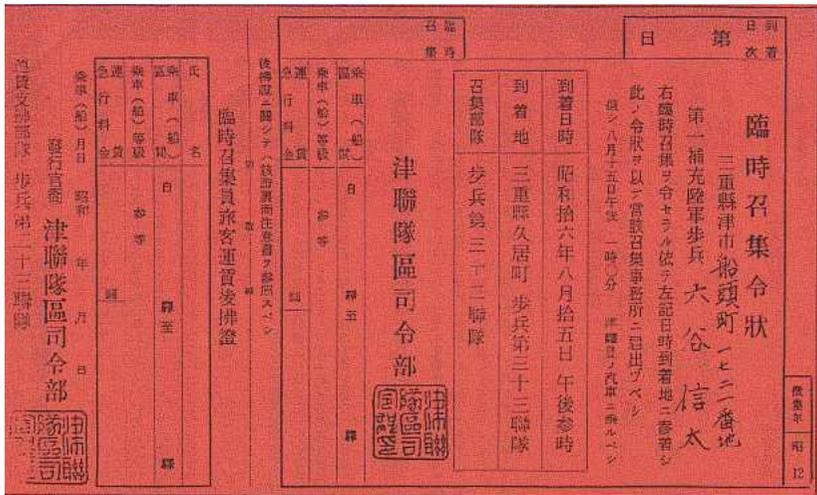
【問題】

1914年，第一次世界大戦が始まり，日本はドイツに宣戦布告しました。今回の宣戦の詔勅にも「およそ国際条規の範囲において一切の手段を尽くし，必ず誤算の無いようにせよ」とありました。

では，その戦争で日本はハーグ条約を遵守して，ドイツ兵捕虜5000人を人道的に扱ったと思いますか。

予想

- ア 人道的に扱った
- イ 虐待・虐殺した
- ウ なんともしえない



現役以外の予備役，後備役，補充兵役などを召集するための「赤紙」。この令状で召集された「第一補充兵」というのは，徴兵検査合格者で抽選に漏れた者で90日間の教育召集を受けた者のこと。

国際法の遵守

日本は、ハーグ条約を遵守して、捕虜を丁重に扱いました。日本の扱いがあまりにも良かったため、戦後、日本に移住したドイツ兵もいたほどでした。

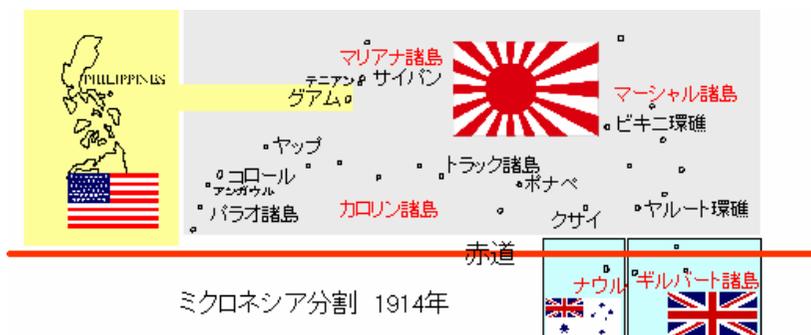
【問題】

では、第一次世界大戦で日本兵捕虜は、どれぐらいいたと思いますか。ドイツ兵捕虜 5000 名と比較してみましょう。

予想

- ア 同じくらい
- イ 半分くらい
- ウ 10分の1くらい
- エ もっと少ない

また捕虜は、帰国後どんな扱いを受けたでしょうか。



捕虜の衝撃

戦場となった青島では、ドイツ軍がたてこもった要塞を日本軍が攻め、ミクロネシアでは、ドイツ軍は抵抗せず降伏したため、この戦争での日本兵捕虜はゼロでした。

しかし、インド洋でドイツによって撃沈された客船に乗客として乗っていた日本海軍少佐が「民間人」として抑留されていました。「理由の如何を問わず、捕虜になった将校は現役には置いておけない」との理由で、少佐は帰国後予備役にされました。

軍部は、欧州の戦場で捕虜の多い(約 800 万)ことに衝撃を受けていました。これに対し、軍務局長は「捕虜が多いのは、欧州各国が物質的に頼りすぎるせいだ」と断じ、「日本軍は、捕虜を恥辱として死ぬまで精神力で戦わねばならぬ」と論じました。

【問題】

1918年、徴兵令が改正されました。それまでの教師(6週間)と金持ち(1年で将校)を優遇してきた制度は、どうなったのでしょうか。

予想

- ア そのまま残った
- イ 優遇範囲が減少した
- ウ より優遇されるようになった

大正7年の徴兵令

今回の改正は主に3点でした。

- ・ 学生の26才までの徴兵検査猶予を廃止して、徴兵検査を受けさせた後、学校の種類に応じた期間の徴兵猶予とする。
- ・ 教師の6週間現役志願制をやめ、1年間の現役義務制とする。
- ・ 一年志願制の年齢制限を「28才以下」から「22才未満」とする。

つまり、今回の改正によって、「特権」を減らし、より徴兵の平等化を図ったのです。それでも教師は、1年間の現役が終われば、召集されない国民兵になるため優遇されていました。

軍部は徴兵忌避の原因のひとつは、「軍隊内での私的制裁にある」として、「軍隊内務書」を改定、それまで新兵が士官の奴隷のように扱われていた従兵制度を廃止し、「各自の人格を尊重して理解ある服従心を涵養する」として、兵士による上官への異議申し立てを認めました。しかし「軍人勅諭」により、「上官命令は天皇の命令であり絶対」であるので、それは意味のないことでした。

陸軍大臣は「(禁止されている)私的制裁は、今なお根絶していない。よって、これが徴兵忌避や軍隊への反感につながっている」と述べました。徴兵されて入隊した者が、私的制裁に耐えかねて、逃げ出したり、自殺したりすることは、初期の頃から珍しいことではありませんでした。

【問題】

第一次世界大戦は、初の総力戦となったため、市民を合わせた死傷者数は5000万人にも及びました。このため恒久平和の実現

に期待が寄せられ、そのひとつとして国際連盟が作られました。

さて、不戦のため国際連盟規約には、「徴兵制廃止条項」を入れることが検討されましたが、それは実現したと思いますか。

予想

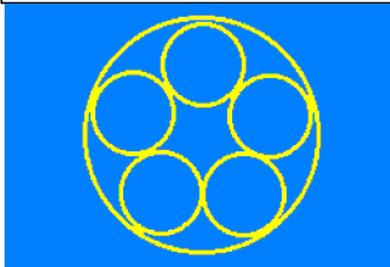
- ア 実現した
- イ 努力目標とされた
- ウ 実現しなかった



国際連盟の旗

正式に旗を採用することはなかった

FOTW より



国際連盟

戦勝国であり、連盟規約に強大な影響力を持つ米国と英国は、もともと徴兵制を採っておらず、国際連盟の目的から言っても、徴兵制禁止規約が盛り込まれそうな情勢でした。そこで日本でも、「徴兵制廃止」の論陣が張られました。しかし、講和会議では、イタリアが「いったん徴兵制をなくせば、復活させるのが大変で、革命が起きるかも知れない」と反対し、フランスも「我が国は地理的理由（ドイツと国境を接している）のために、常備軍が必要」として反対したため、「徴兵制度撤廃条項」は連盟規約案から削られました。

第一次世界大戦では、多数の死傷者と共に、多くの戦争神経症患者が生まれました。そこで欧米諸国は、戦争中であっても、年間1～2週間の休暇制度を導入しました。

日本兵にも、戦争神経症患者が少なくありません（大東亜戦争末期では戦病者の22%）でしたが、軍部は「わが軍に精神病患者はいない」という論理でした。だから、後に陸軍病院に戦争神経症の患者の収容を始めたときも、患者は「たるんでいる」として暴力的に「治療」されました。日本兵の休暇は、年間20日ありましたが、本当に休暇が必要な戦時には、休暇を取ることが許されていませんでした。

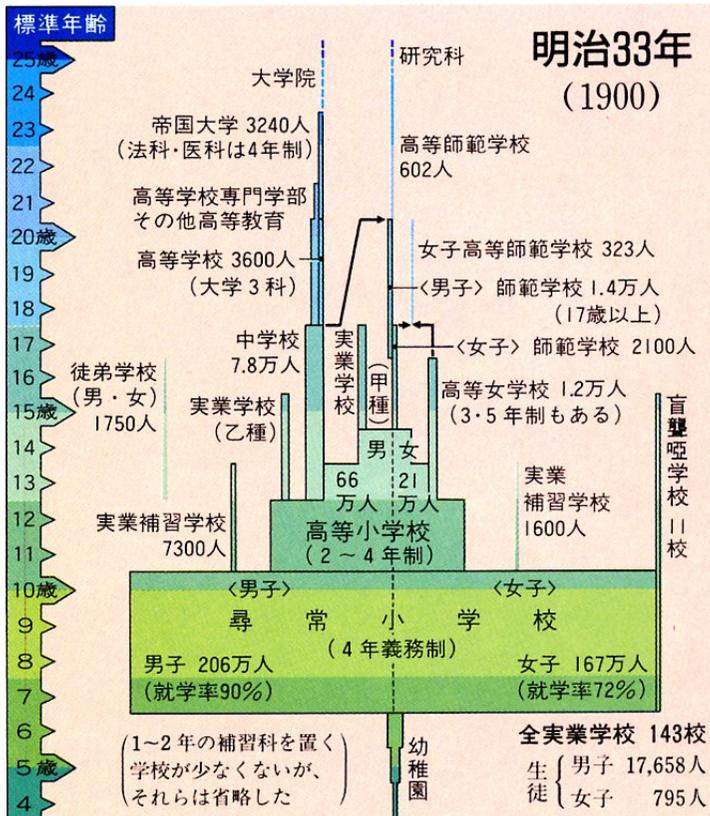
【問題】

当時の天皇制や軍部を支持していたのは、どんな国民だったのでしょうか。1916年から10年間の徴兵忌避者を学歴別に分けて分類したところ、学歴と徴兵忌避の間には、どんな関係が見られ

たと思いますか。

予想

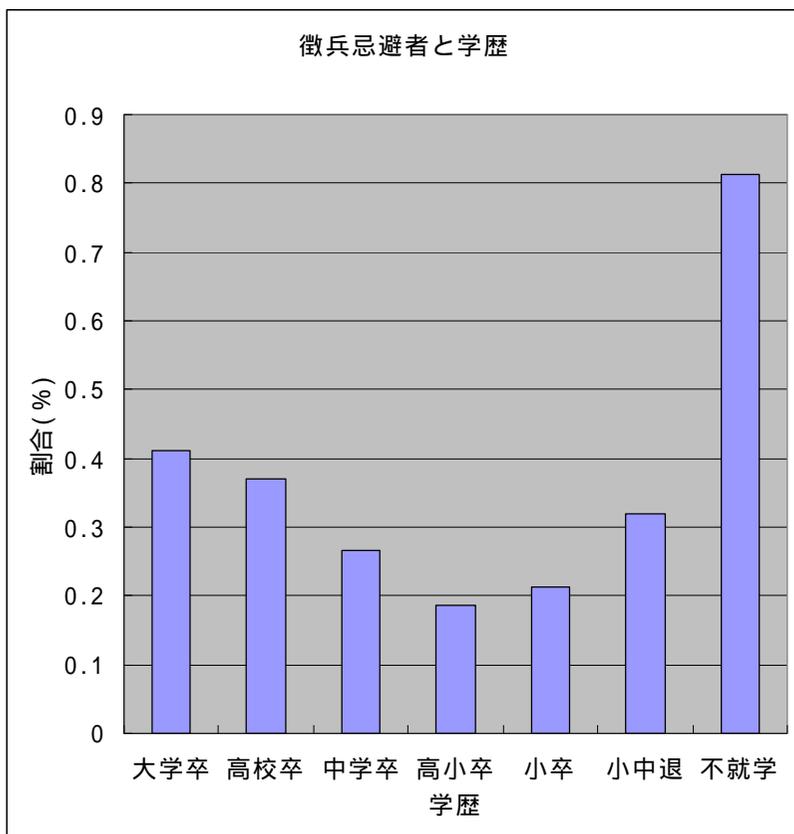
- ア 関係は見られなかった
- イ 高学歴の者ほど徴兵忌避が多かった
- ウ 低学歴の者ほど徴兵忌避が多かった
- エ 中学歴の者ほど徴兵忌避が多かった
- オ そのほか



「週刊朝日百科 日本の歴史」より

教育の成果

陸軍省統計年報によると、学歴と徴兵忌避の関係は図のようになります。学歴が低くても高くても徴兵忌避の割合は高く、高等小学校卒業者の割合が一番低くなっています。天皇制イデオロギーに基づいた教育は、高等小学校までは成果を示しますが、その後の中高等教育では、うまくいっていないようでした。しかし、小学校での天皇制教育の成功は、小学校教員の徴兵における優遇措置制度と無関係ではなかったでしょう。



そこで軍部は、教育の場に介入を始めました。「低学歴者は入隊してもあまり役に立たない」として、高学歴者の教育に介入したのです。全国の中学校に軍事教練の課程が設けられ、さらに、陸軍現役将校学校配属令により、中学校以上で現役将校による軍事教練が実施されました。また、小学校卒業後から徴兵までの軍事訓練機関として、青年訓練所が、各地に設置されました。

しかし、この頃でも実際に徴集される率は、徴集年齢の10分の1程度でしかありませんでした。1923年、富国徴兵保険相互会社（現在の「フコク生命」）が創業し、「徴兵保険」を売り出して、2年後には業界トップの売り上げとなりました。靖国神社の石灯籠は、この保険会社によって寄贈されたものです。しかし、その後大東亜戦争により徴集率が70%を超えるようになり、保険会社の経営は悪化していきました。

【問題】

国連規約で徴兵制度廃止が検討されたことは、各国に大きな影響を与えました。日本でも徴兵制度の改正が検討され、徴兵令は、1927年に「兵役法」という法律として公布されました。では、国民の兵役負担は、どう変わったのでしょうか。

予想

- ア より厳しい内容になった
- イ 緩やかな内容になった
- ウ ほとんど変わりがなかった

兵役法

徴兵令が「兵役法」という法律になったのは、軍部が「法律にして、徴兵に関する予算を議会で確保させる」ことを考えたからです。

兵役法では、国民の負担減が図られていました。まず現役期間が、1年短縮されて陸軍2年、海軍3年となり、青年訓練所での訓練修了者は、さらに1年半で良いことになりました。また、現役以外での演習や教育召集の回数や期間も、大きく削減されました。教師対象の1年現役兵制（現役後は国民兵）も、師範学校における軍事教練経験者は5か月、未修了者は7か月に短縮されました。また「兄弟が入隊しているときの入隊延期」も復活しました。さらに40才までの徴集義務を37才までに引き下げました。また貧困者の徴集延期と免除の範囲をさらに拡大しました。

現役の短縮は、国費の節減と、労働力確保ということもありましたが、第一次世界大戦後の平和への動きにも配慮したものでした。

金持ちのための1年志願制は、兵役法から削除されましたが、別に「陸軍補充令」という勅令で定められることになったのです。この「大学卒業者は10か月の現役で少尉」という制度は、1年志願制を「兵役逃れ的手段」としてではなく、幹部候補生養成の場に転換したからできたものです。

このような変化は、第一次世界大戦が総力戦であり、来るべき次の戦争も総力戦になるとして、それに備えるためでした。「一部の人間を長期間軍隊に入れるのではなく、短期間でも多くの人間を兵士にしよう」としたのです。ですから、現役期間は短縮されたものの、そのあとには、予備役（陸軍5年4月、海軍4年）+後

備役（陸軍 10 年，海軍 5 年）という，これまでよりも長い応召義務期間が課せられていたのです。

また，軍は戸籍欄外に徴兵のための記号をつけることを，司法省の「戸籍法に反する」との反対を押し切って，実現させました。こうして国民皆兵へとまた一歩近づいていったわけです。

【問題】

1929 年，日本は，ジュネーブ条約 = 「捕虜の待遇に関する条約」に調印しました。では，日本はこの条約を批准したと思いますか。

予想

- ア 全文批准した
- イ ある条項を除いて批准した
- ウ 批准しなかった



日本男子は 20 歳になると徴兵検査通達書が配達された。この通達書の発送は戸籍により行われた。この戸籍という世界有数の国民登録制度がすべての国民を漏れなく兵士に仕立てるために重要な役割をはたす事となったのである。

www13.ocn.ne.jp/

~seiroku/shutusei.html

批准せず

ジュネーブ条約批准に、軍は強硬に反対しました。その理由は、以下のようなものでした。

- ・ 日本軍人は捕虜になることを禁じられている。したがってこの条約の適用は日本にとって一方的な義務を課せられるだけである。
- ・ 捕虜の優遇を保証すると、爆撃機搭乗員が任務遂行後捕虜になることを期して空襲を行うことで、その行動半径が倍になる。
- ・ 「第三国代表は立会人無しで面会できる」という規定は、軍事上支障がある。
- ・ 「捕虜に対する処罰規定」は、日本軍人以上に優遇しているので日本軍の懲罰令を変更しなければならないが、それは軍規維持上不可能である。

こうして軍の反対を受けて、日本は署名したジュネーブ条約を批准しませんでした。この事件は、署名から批准拒否まで、日本で報道されることはありませんでした。

1930年の昭和恐慌は、米などの暴落により農家に困窮をもたらせ、現役志願者が急増しました。大正デモクラシーは、すたれてゆき、軍部はナショナリズムをファシズムに誘導していきました。そうして、軍は満州事変をおこしました。

【問題】

1931年9月から1933年5月に停戦協定が結ばれるまで、日本

は中国と満州や上海で戦いました。その戦争で、日本は中国人捕虜を人道的に扱ったと思いますか。

予想

- ア 人道的に扱った
- イ 虐待や虐殺をした
- ウ なんともいえない



奉天に入る日本軍 日本軍は1931年9月18日夜、奉天(現、瀋陽)近郊の柳条湖(りゅうじょうこ)で満鉄線路を爆破し、中国側の破壊工作として軍事行動をおこした(柳条湖事件)。柳条湖事件の翌19日、関東軍は奉天や長春(のちの「満州国」の首都、新京)をはじめとする満鉄沿線を制圧した。

事変と皇軍

この戦争は、軍部が起こしたもので「宣戦布告なき武力行為」＝「事変」と呼ばれました。日本政府は、ジュネーブ条約を批准しなかったものの、ハーグ条約を批准していたにもかかわらず、軍部は「これは戦争ではない」として、戦時国際法を無視しました。そして、中国兵捕虜を「ゲリラ（匪賊）」として、現地指揮官の判断で処刑しました。

満州事変後に陸軍大臣に就任した荒木大将は、かねてより日本精神を強調し、「日本帝国軍は皇軍である」と主張していました。当時の軍隊は、自らのことを「国軍」と称していたのですが、この頃より「皇軍」が一般的になりました。国の軍隊でも、国民の軍隊でもなく、「天皇の軍隊」となったのです。しかし、それは「軍人勅諭」に述べられていたことでした。

荒木陸相は、それまで軍装にサーベルを使っていたのを、日本刀へと変更しました。西条八十は、そのことを「われ、この新装刀を前にして・良く切れよ・わが神族に抗う一切の地上の敵を」と詩にしました。

【問題】

いくら軍が皇軍を自称し、勝手に行動できたとしても、国民の支持を失えば、軍は崩壊してしまいます。そこで軍は、国民の支持を増大させるために、どんなことをしたと思いますか。

予想

ア 愛国美談を捏造した

- イ 聖戦の思想体系を作り上げた
- ウ 国民の余暇のために積極的に協力した
- エ そのほか



チチハルを攻撃する日本軍

1931年11月4日、9月18日の柳条湖事件を口実に日本軍は中国軍に攻撃を開始、翌年2月までに中国東北部の大半を占領。3月には「満州国」を成立させた。

毎日新聞社

Microsoft(R) Encarta(R) 2006. (C) 1993-2005 Microsoft Corporation. All rights reserved.

プロパガンダ

上海事変のとき、指揮官が導火線の寸法を必要なサイズの半分間違っただけのため、鉄条網を爆破しようとした3兵士が途中で爆死した事件がありました。軍は、不名誉なこの事件を、「命をかけて鉄条網を突破しようとした英雄的行為」と変えて宣伝しました。

新聞各紙は「肉弾三勇士」と激賞し、連日その記事を取り上げ、翌月には3兵士をテーマにした映画が5本も封切られ、歌舞伎座や新国劇でも題材として取り上げられました。「朝日新聞」が「爆弾三勇士の歌」を募集すると、半月で8万通を超える応募があり、最優秀作は与謝野鉄幹のものでした。三勇士は「軍神」として、琵琶、浪曲、絵画、彫刻など、あらゆる分野で競って作品化され、「三勇士饅頭」「三勇士煎餅」までが売り出され、デパートの食堂では「肉弾三勇士料理」が売り出されました。

このプロパガンダの成功に、陸軍は死んだ三兵士を、それまで前例のない「2階級特進」としました。「爆弾三勇士」の話は、後に国民学校教科書にも載りました。盛り場では、「俺は、三勇士み



たいに無理しないで長生きした方がいいや」と言った酔客が袋だたきに会う事件が起きました。

軍部が英雄を創造し、マスコミがそれを

宣伝して、国民がそれを受け入れたのです。

(写真は肉弾三勇士像)

【問題】

では、この戦争で捕虜になった日本兵を軍は、どのように扱ったと思いますか。

予想

- ア 軍法会議にかけ処罰した
- イ 行政処分のみ
- ウ 自決勧告
- エ そのほか



突然に「軍神の母」に祭り上げられたこの三人の母親たちは毎日のように訪れる新聞や雑誌社の記者、カメラマンの前でおろおろしながら、しかし勇士の母として

決して涙を見せてはならず健気にも「名誉です」と答えねばならなかったのである。マスコミは、この肉弾三勇士を空前絶後の戦争美談に仕立て上げてしまった。 plaza.harmonix.ne.jp/~y-takuya/Bakudan/top.htm

空閑少佐捕虜事件

上海事変の時、空閑陸軍少佐は負傷して倒れたところ、戦死したと思われて置き去りにされ、捕虜となりました。捕虜交換で帰国後、彼は軍法会議にかけられましたが、無罪の判決でした。彼は、「次の戦闘に一兵卒として使ってもらえれば見事に死ぬ」と主張していましたが、それが認められることはありませんでした。同期生会は彼に「潔く自決せよ」と電報を出し、陸軍高官も「誠に気の毒であるが 事情がどうであれ、一度捕虜となった不名誉は日本軍人として償わなければならない」と暗に自決を強要しました。捕虜のことは、報道規制がされていたにも関わらず、彼の身重の妻が待つ実家には、「卑怯者」と怒鳴り込んだり、投石したりする者が多数いました。「爆弾三勇士」を讃える国民にとって、空閑少佐の行為は許せなかったのです。

そして、空閑少佐は、帰還の12日後、捕虜になった場所で自殺しました。そのとき、空閑少佐の夫人は「遅ればせながら自殺しましたので、これでやっと日本軍人としての面目が立ったのではないかと思います」とコメントしました。

空閑少佐の自殺は、号外で国民に知らされました。マスコミは、彼を「帝国軍人の鑑」と絶賛し、美談として大々的に宣伝しました。そして、国民の態度も急変し、軍には「戦死として扱え」との陳情が殺到しました。

荒木陸相は「日本軍が強いのはこうした心持ちが全軍にみなぎっているから」とコメントしましたが、自殺は公務死扱いで「戦死」とはなりません。それでも、勲五等の叙勲が勲四等に格上げされ、2年後には、「戦死」として靖国神社に合祀されました。彼は何のためになぜ死んだのでしょうか。

この事件以降、国民の間に「捕虜になるよりも死を選ぶことを美德とする思想」が急速に拡大していきました。もう、自殺と「名誉ある死」の区別は困難になっていました。とにかく死ぬばそれでよくなったのです。

「忠臣蔵」が国民の人気を集め、自殺はどんどん美化されていきます。徳富蘇峰は「花は桜木、ひとは武士」と、この傾向を称賛しました。

荒木陸相は『皇国の軍人精神』を出し、皇国史観に基づいて、軍隊の捕虜観を転換させました。「戦争は聖戦であって負けることはない」として「必勝」を唱え、「退却と降伏は、皇軍においては絶対の忌み言葉である。それは軍人精神と根本的に相容れない関係である」と捕虜になることを否定したのです。

さらに「軍隊内務書」も改正され、「兵士の異議申し立て制度」を削除するなど、大正デモクラシーを完全に否定したものにしました。そこでは皇軍意識の徹底が図られ、「命令の責任は上官のみにある」とされて、上官の命令を拒否することが不可能になりました。そして、2.26事件(青年将校によるクーデター未遂)では、「上官の命令に従っただけの兵士」を処罰することができなかったのです。また、関東大震災のときに、甘粕憲兵大尉らが、無政府主義者の夫妻とその甥の幼児を殺害した事件も、殺害の実行者は、「上官の命令に服しただけ」として無罪になりました。

また軍人勅諭の全文暗記が強要されるようになり、除隊式で勅諭を読み間違った少尉が自殺する事件もありました。天皇の言葉は、まさしく「聖典」となったのです。

【問題】

1937年7月の盧溝橋事件により、日本と中国は、宣戦布告のないまま全面戦争へと突入しました。

この戦争で、日本軍は、中国兵捕虜を人道的に扱ったと思いますか。

予想

- ア 人道的に扱った
- イ 虐待や虐殺をした
- ウ なんともいえない



盧溝橋事件のおきた盧溝橋 北京南西約6kmの永定河(えいていが)にかかる盧溝橋は、元代にマルコ・ポーロがわたったともいわれ、別名マルコ・ポーロ橋とよばれる。日本軍が駐屯する東岸から中州をはさみ西岸へのびる長さ270mほどの橋である。事件の発端となる銃撃は、1937年(昭和12)7月7日夜、この橋の北約1kmの竜王廟(りゅうおうびょう)方面であった。攻撃をはじめた日本軍は、7月8日昼までに東岸を制圧、西岸へと進攻する。毎日新聞社 Microsoft (R) .

支那事変

当時、日本は中国との戦争を「戦争ではない」として、支那事変と称していました。そこで政府も「戦争ではないから捕虜は存在しない」として、国際赤十字社による調査を拒否していました。陸軍次官は「支那事変は戦争ではないから、戦時国際法を悉く適用するのは適当ではない」という通達を出していました。

実際の中国兵捕虜の扱いは、現場指揮官に一任されており、その多くは、試し切りや銃剣訓練の「練習台」として使われて殺されました。殺されないまでも、奴隷のように使われたり、果ては731部隊によって人体実験に使われたりしました。その背景には、天皇制教育の結果としての「中国人蔑視」もあったのです。南京大虐殺も、起こるべくして起こったと言えます。



南京に突入する日本軍の軽装甲車

1937年(昭和12)12月12日。中華門を爆破した日本軍は、続々と南京城内へ進入した。この中国の首都、南京攻略戦の過程で南京大虐殺とよばれる虐殺、強姦、略奪などの残虐行為がおこなわれた。

毎日新聞社

Microsoft(R) Encarta(R) 2006. (C) 1993-2005 Microsoft Corporation. All rights reserved.

海軍では、表向きは戦時国際法を適用しようとした。しかし、海軍が「人道的に扱っている」として公表した捕虜の数はわずかであり、現場での実態は、陸軍と大差なかったのです。

【問題】

中国は 8000 人の日本兵捕虜に対し国際条約を適用しようとしていましたが、前線の軍は捕虜を虐殺していました。日本兵捕虜は、移動中に、農民の投石を受け殺害されることが多々ありましたが、中国軍は、それを止めようとはしませんでした。

では、中国軍の行いについて、日本はどんな対応をしたと思いますか。

予想

- ア 国際法を遵守するよう抗議した
- イ 報復すると脅迫した
- ウ 中国軍は残虐であると宣伝した
- エ そのほか

蝗軍

軍部の困ったことに、日中戦争では、今までの戦争と違って、多くの日本兵が捕虜になっていました。政府も日本兵捕虜が虐待を受けているのを知っていましたが、「日本兵に捕虜はいない」という方針でしたから、抗議するわけにもいきませんでした。それに、軍部や政府にとっては、「捕虜になったら虐待される」ということは、「捕虜にならずに死ぬ」と教えるのに好都合でした。

中国共産軍（八路軍）は、軍律も厳しく、「日本兵は軍閥財閥にだまされて、我々に銃を向けている。捕虜は我々の兄弟として待遇すべし」として日本兵捕虜を人道的に扱っていました。政府が一番懸念したのが、その事実が広く伝わることだったのです。

日本兵捕虜が中国人民に憎まれていたのは、日本軍の体質に問題がありました。日本軍は、「精神力で勝つ皇軍」ですから、補給の概念に乏しく、輸送隊は軽蔑されていました。日本軍の装備は、すべて個々の兵士が持って進軍していましたし、食料は現地調達の基本でした。日本軍は食事をするときも、個々の兵士が食事を作りました。そのため、兵士はまず、家を壊したり、家財を略奪するなどして燃料を調達し、さらに米などを徴発しました。しまいには、装備などを運ぶために、民衆を徴発して、奴隷のように使いました。

このように、「日本軍が通った後には、何も残らない」ので、中国民衆は、日本軍を「蝗軍」（イナゴの軍、皇軍のもじり）と呼ぶほどでした。

中国の抵抗は止まず、日中戦争は長期化し、政府は国家総動員法を作って、物資不足から、様々な国民生活の統制を始めて、「時局にふさわしくない」というのが「魔法の言葉」になりました。

【問題】

1939年(昭和14年),兵役法が改正されました。では,どのように改正されたのでしょうか。

予想

- ア より国民の負担減となった
- イ 逆に負担増となった
- ウ なんともいえない



日中戦争はじまる

日中戦争は、1937年からはじまり、太平洋戦争で日本が敗戦をむかえる45年までつづいた。日本軍は、はじめのうちは勝利をつづけたが、やがて持久戦となった。日本軍の戦いは、広い中国を戦場にねばり強くたたかう中国軍の前に、勝利がみえないまま泥沼化していった。

資料提供: NHK Microsoft(R) Encarta(R) 2006. (C) 1993-2005 Microsoft Corporation. All rights reserved.

非国民

日本軍が南京を陥落したとき、日本各地ではそれを祝う提灯行列が行われました。国民は「これで戦争が終わる」と思ったのです。しかし、「聖戦」という目的がはっきりしない戦争は、終わることがありませんでした。そこで日本は広大な中国と満州に展開する兵が多数必要となりました。

改正された兵役法では、教師の特権であった短期現役兵制度を廃止し、教師も徴集されることになりました。これにより、合法的兵役忌避の手段はなくなりました。また、予備役と後備役、補充兵役の兵役期間をそれぞれ延長しました。

さらに、抽選による選抜方式を廃止し、徴兵検査の結果の順に、徴兵することになりました。このことは、もはや「徴兵よけ祈願」が意味のないことを示していました。また、青年訓練所は青年学校とされて、義務制となりました。

政府は、江戸時代の「五人組」制度に倣った「隣組」制度を作り、それを国家総動員体制の末端と位置づけることで、国民監視制度を作り上げました。そして、隣組や学校で、戦争遂行のための活動に非協力的な者を無理やり動員するための魔法のような言葉が「非国民」でした。

食料などの生活必需品は、隣組を通じて配給されたため、隣組の組長や幹部に「非国民」とされることは、村八分に等しい重大な生活の危機となったのです。

学校でも、教師は好んでこの言葉を使いました。忘れ物をして、教師に反発する生徒も、みんな「非国民」とすることで、生徒を理屈抜きで教師に服従させることができたからです。



To be a loyal Japanese, The long sleeves of kimono, A symbol of luxury and idleness, Had to be cut. 「平和いろはかるた」より

【問題】

1940年2月、「東洋平和とか聖戦とかの空虚なスローガンではなく、具体的な戦争処理方針を示せ」と国会で政府批判の演説した民政党的齋藤隆夫議員の発言は、軍部から「聖戦目的への侮辱、十万の英霊を冒瀆する非国民的発言である」とされて、国会は齋藤議員の除名を決議しました。

では、447人の衆院議員のうち、反対票を投じたのはどれくらいいたでしょうか。

予想

- ア ほぼ半数
- イ 10分の1くらい
- ウ もっと少ない

聖戦貫徹決議

斉藤議員の演説は、的を射たものであり、拍手喝采で迎えられました。しかし、軍部だけでなく、議員の間からも非難が出たため、斉藤の所属する民政党と議長は、「不適當発言」として斉藤発言の5分の3を記録から削除して、斉藤を離党・謹慎処分としました。しかしこの処分では、非難は収まらず、懲罰委員会は、満場一致で除名を決定し、衆議院本会議でも、賛成 296、反対 7、棄権 144 で除名が可決されました。

除名決議に反対した議員も、所属の政党から除名され、衆議院は、「聖戦貫徹決議」を採択し、多くの議員が「聖戦貫徹議員連盟」を結成しました。

【問題】

1939年、満州とモンゴルとの国境で、「ノモンハン事件」と呼ばれる、日本とソ連+モンゴル軍との大規模な武力衝突がありました。この戦争でも、日本軍はソ連兵やモンゴル兵捕虜を人道的に扱うことをせず、もっぱら虐殺しました。そのためもあって、この戦いでは、初めて日本兵捕虜の数が、ソ連兵+モンゴル兵捕虜の数を上回りました。

では、この戦いで、日本兵捕虜をソ連（收容中）と日本（帰還後）は、それぞれどう扱ったと思いますか。

予想 1

ソ連は日本兵捕虜をどう扱ったのでしょうか。

- ア 人道的に扱った
- イ 虐待した
- ウ なんともいえない

予想 2

日本軍は、帰還した捕虜をどう扱ったでしょうか。

- ア 軍法会議に付し、無罪でも自決などの勧告
- イ 行政処分のみ
- ウ 英雄として称賛
- エ そのほか



ハルハ川の前線へ むかう日本軍軽戦車 隊

1939年(昭和14)7月
初め。5月12日にハル
ハ川付近ではじまった
モンゴル軍と満州国軍
の紛争は、やがて日ソ

両軍の本格的な戦闘となった。このノモンハン事件は、関東軍の暴走により1個師団がほぼ全滅するという大損害をこうむった。

捕虜の願い

ソ連は、日本兵捕虜を概ね人道的に扱い、日本に対し「帰還捕虜に対する扱いを改めるように」と要求までしていました。そのため、捕虜になった日本兵には、「帰国せず、ソ連にとどまりたい」と希望する者が少なくなく、およそ 1000 名が残留したと言われています。

それは、帰還した捕虜を待っているのは、処罰だけだったからです。日本軍は、将兵が捕虜になった場合、「戦死」として家族に連絡していました。この時期になると、もはや「捕虜になった状況は無関係」で、捕虜になった以上、あるのは「死」だけだったのです。

将校の場合には、「自決する機会」が与えられましたが、兵卒の場合は、取り調べを受けて処罰され、無罪となっても「厳格な懲戒処分」(懲罰, 免官, 降格, 重謹慎, 重営倉)を受け、強制的な奉仕活動をさせられ、「捕虜だったことを口外すること, 捕虜同士で組織を作ること, かつての部隊の同僚に会うこと」が禁止されました。

しかし、一度捕虜になった者は、軍隊に復帰しても、村八分にされるだけで、活躍する場を与えられたり、昇進したりすることは決してありませんでした。被弾して墜落し、捕虜になった原田少佐は、帰国後、「名前を変えて、満州へ移住するように」と説得されましたが、結局自殺しました。同じく撃墜されて捕虜になった伊藤曹長は、敵機 25 機を撃墜してエースと言われた人物でしたが、捕虜になったときに負傷していなかったため、軍法会議で「敵前逃亡で有罪」とされ、一等兵に格下げの上、2 年 10 月の禁固刑となりました。彼の故郷の村長は「一族の恥さらしだ」とし、婚

約者は縁談を破棄しました。

同時期の中国戦線でも、捕虜になって四日目に脱走した兵士は、禁固二年の判決を受け、負傷して捕虜になり、1年半後に友軍によって解放された兵士は、懲役6年の判決を受けていました。

軍は、軍法会議で「無罪」となった捕虜の名誉を回復しましたが、大衆はそれを認めませんでした。そこで政府は、帰還した捕虜を大衆の侮蔑や怒りから保護するため、国外へ移住することを許可し、多くの者が満州軍や満州国警察に入っていました。ソ連にとどまった捕虜も、こういう状況を知っていることでした。かつて祖国のために命がけで戦いながら、祖国のからの報復を恐れ、残された家族のためにも、外国にとどまったのです。帰国しなければ、「名誉ある戦死」となって家族には恩給も出たからです。

このノモンハン事件で、日本軍は機械化されたソ連軍の前に惨敗しました。日本軍の兵器が劣っていることが明らかになり、ますます軍部は、「日本軍の秘密兵器は、忠君愛国、七生報国、八紘一宇などの精神的側面である」とせざるを得ませんでした。

そして、すべての学校に教育勅語と「ご真影」を納めた「奉安殿」が設置され、その前を通る者には、最敬礼が強制されました。祝日には、全校児童を前にして、校長が軍人勅諭を読み上げるようにもなりました。マスコミは、この流れに協調し、加速させていきました。

【問題】

前述のように、日本軍は中国民衆から「蝗軍」と呼ばれて忌み嫌われていました。日本兵は、中国民衆に対しても、強盗、殺人、強姦など様々な犯罪行為をしていたのです。それは、日中戦争後2年間で軍が把握しただけで1500件以上ありました。

では、どんな兵士の犯罪が一番多かったと思いますか。

予想

- ア 職業軍人
- イ 徴兵された現役兵
- ウ 現役後に召集された者
- エ そのほか



戦時中の学校の校庭には奉安殿という小さな社があった。その中には、天皇、皇后両陛下の御真影(お写真)が納められていた。毎月1日、興亜奉公日には御真影が講堂に飾られ、校長先生が教育勅語を朗読された。「国に忠を、父母に孝を、兄弟(けい

てい)に相和し」。小さな子供たちにはちんぷんかんぷんだったけれども、式典の間は背筋を伸ばし、不動の姿勢で立ち続けていた。登校、下校時には、奉安殿の前で衣服を正して最敬礼。きめられた通り、素直に守る毎日だった。でも、子供らしい無邪気さ、快活さは失っていなかった。(絵と文：木村祥刀)

軍規の乱れ

もちろん、日本軍でも、民間人の殺害や強姦は、犯罪として処罰されました。犯罪行為をした兵のほとんどは、現役を退いて生業に戻っているときに召集された応召兵でした。「聖戦」というだけの「大義のない戦争」に、家族や職場から、召集令状によって無理やり引き離された彼らは、自暴自棄になっていたのです。そして、軍の幹部は、こうした軍律の乱れに対して、応召兵の反乱を恐れて「戦時中だから大目に見よ」としていたのです。

退廃していたのは、応召兵だけではありませんでした。高級将校は、前線に将校専用の料亭を構えたり、特権慰安婦を独占したりしていました。日本軍の軍規は、すべてにおいて乱れていたのです。これが「正義の軍隊」=「皇軍」の実態でした。

そこで東条英機陸相が、1941年1月に軍規肅正のために「戦陣訓」を出したのです。だから戦陣訓には、次のような条項があり、なんとか軍律をただそうとしたことが伺えます。

- ・ 敵及住民を軽侮するを止めよ。
- ・ 敵産、敵資の保護に留意するを要す。徴発、押収、物資の燼滅等は規定に従ひ、必ず指揮官の命に依るべし。
- ・ 皇軍の本義に鑑み、仁恕の心能く無辜の住民を愛護すべし。
- ・ 戦陣苟も酒色に心奪はれ、又は慾情に駆られて本心を失ひ、皇軍の威信を損じ、奉公の身を過るが如きことあるべからず。深く戒慎し、断じて武人の清節を汚さざらんことを期すべし。
- ・ 国際の儀礼亦軽んずべからず。

しかし、戦陣訓では、軍紀をただすことはできず、「蝗軍」の実態は変わりませんでした。

【問題】

徴兵され入隊した者には、軍人の身分証明書として「軍隊手帳」が渡されました。軍隊手帳には、まず「軍人勅諭」などの勅語が赤色字で載っており、その後に「軍隊手帳取扱心得」「応召、出征時の心得」「軍歴の記録」などが黒色字で載っていました。

東条陸相が「戦陣訓」を出してからは、軍隊手帳にも「戦陣訓」が掲載されましたが、その位置づけは、どういうものだったと思いますか。

予想 1

「戦陣訓」は何色で印刷されていたでしょうか。

- ア 赤色
- イ 黒色
- ウ その他

予想 2

「戦陣訓」は、どこに掲載されていたでしょうか。

- ア 最初
- イ 勅語の後
- ウ 「心得」の後
- エ 最後



軍隊手帳

軍隊手帳

「戦陣訓」は黒色字で「心得」の後に載っていました。赤色字で印刷された勅語は、暗記を強制されましたが、「戦陣訓」は陸軍大臣の出したものであり、特別の扱いはされていなかったのです。

「軍隊手帳取扱心得」には、「勅諭勅語が載っているので、最も丁寧に取り扱い、間違っても汚したり、破ったりしないことは、もちろんのこと、大切に所持して、なくさないように注意すべきこと」「不注意もしくは、故意により破損したり紛失したりしたときは、賠償させるだけでなく、懲罰に処す」とありました。

【問題】

「戦陣訓」は「陸軍訓辞第1号」として出されたものです。では、「戦陣訓」は、海軍ではどのように扱われたのでしょうか。海軍では、陸軍と違う形式の「軍人手帳」を使っていました。そこには、戦陣訓や軍人勅諭は、掲載されていたのでしょうか。

予想

- ア 内容は陸軍のものとはほぼ同じだった
- イ 「戦陣訓」が載っていなかった
- ウ 「戦陣訓」も「軍人勅諭」も載っていなかった
- エ そのほか

履歴表

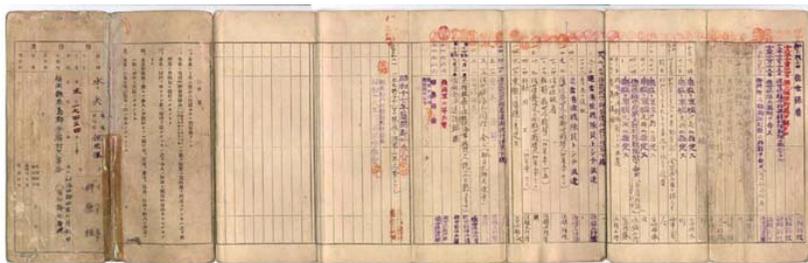
海軍が使っていた身分証明書は「履歴表」(下に写真)といい、その名前の通り、軍歴のみが記載されるもので、「戦陣訓」も「軍人勅諭」も「取扱心得」も載っていませんでした。

日本では、当初から、陸軍と海軍は互いに反発していました。陸軍が精神論を強調していても、海軍は「軍艦」などの武器がなければ戦うことが不可能であり、また航海には技術と国際法の理解が必要で、もともと精神主義に傾倒するのが難しかったのです。だから、大東亜戦争のとき、陸軍が「敵性用語」の使用をやめたときも、海軍は英語をそのまま使用していました。

海軍では、教科書に「軍人勅諭」を載せていましたが、それを強調することも、暗唱させることもありませんでした。それは、軍人勅諭も含めてドイツ式に変更した陸軍と、ずっと英国式でやってきた海軍の違いなのかも知れません。

また、海軍は、「戦陣訓」そのものや、似たような訓辞を出すこともありませんでした。だから海軍兵には「戦陣訓」を知らない者も少なくありませんでした。

しかし、大東亜戦争末期のサイパンで南雲海軍中将は「生きて虜囚の辱めを受けず」と「戦陣訓」を引用して、玉砕命令を出しました。これは、どうしてなのでしょう。



【問題】

では、東条英機の「戦陣訓」は、国民にはどのように受け取られたと思いますか。

予想

- ア 無関心だった
- イ 大歓迎された
- ウ 反発する者も少なくなかった



斎藤隆夫

(1870～1949)

明治3年、兵庫県豊岡市出石町中村に生まれる。大正から昭和初期にかけて政界で活躍。「憲政の神様」と呼ばれた。

弁護士・衆議院議員当選13回・民主党最高顧問・国務大臣

生地・豊岡市には「斎藤隆夫記念館」がある。

国民の戦陣訓

戦陣訓が出されると、新聞各社は一大キャンペーンを行いました。戦陣訓は詔勅とは違い平易な文章で書かれていましたが、『戦陣訓読本』など民間向け解説書が次々と出版され、ベストセラーとなりました。「一億一心の座右銘」として東条英樹の肉声による朗読レコードも発売されました。また武士道がもてはやされ、武士の道徳を説いた江戸時代の『葉隠』もブームになりました。レコード各社は、競って「戦陣訓の歌」を発売し、流行歌となりました。

こうして「戦場の軍規肅正」を目的として出された「戦陣訓」は、その目的を達成できなかったのに、政府のプロパガンダとメディアの「自決の美化」に支えられて、大衆に「正義」として浸透していきました。

「戦陣訓の歌」・1941.4・梅木三郎作詞

日本男児と 生まれ来て
戦さの場に 立つからは
名をこそ惜しめ 武士よ
散るべき時に 清く散り
御国に薫れ 桜花

情けに厚き 丈夫も
正しき剣 とる時は
千万人も 辞するなし
信ずる者は 常に勝ち

皇師に向かう 敵あらし

五条の訓 かしこみて
戦野に屍 さらすこそ
武人の覚悟 昔より
一髪 土に 残さずも
誉れに なんの悔もある

山ぬく威武も 騎るなく
海をも容るる 仁をもち
つらぬく大義 三千年
大和心の ひと筋は
これこそ 軍の大精神

【問題】

第二次世界大戦では、特に独ソ戦で、双方とも 00 万人の捕虜を出しました。では、ソ連やドイツの指導者は、兵士が捕虜になることについて、どう考えていたのでしょうか。

予想 スターリンは() ヒットラーは()

- ア 捕虜になることを認めていた
- イ 捕虜を禁止していた
- ウ 特に指示や命令はなかった

ヒットラーの「戦陣訓」

ドイツ兵が戦場で常に携帯していた手帳には、次のような戒めがあり、捕虜になったときの心得も記されていました。

不必要な野蛮行為を避け、騎士道を守って戦うこと。

必ず兵服を着用して戦うこと。

降伏した敵兵の生命は、これを奪わぬこと。

捕虜を人道的に待遇すること。

ダムダム弾の使用を避けること。

赤十字を尊重すること。

非戦闘員を殺害せず、略奪をしないこと。

中立・非戦闘諸国を尊重すること。

捕虜となった場合は、自分の姓名は述べるが、

軍の組織・秘密は遵守すること。

敵が上記の規則を破ったときは報告すること。

第二次世界大戦中、ヒットラーは何度となく「撤退は認めない、死守せよ」という命令を出していましたが、それはあくまでも軍事的なことで「捕虜は恥だから死ね」とする概念はありませんでした。

ソ連のスターリンは、東条と同じく捕虜を禁止し、「戦線離脱者は銃殺にする。投降者は、その家族を逮捕せよ」と命令しました。そして、捕虜となったソ連兵は帰国しても、反逆罪に問われて、強制収容所送りか銃殺となりました。

しかし、ソ連兵もドイツ兵も、前線での将兵の判断で、ヒットラーやスターリンの命令には従わずに、それぞれ何百万人も捕虜となったのです。

皮肉なのは、「兵士に捕虜になるなら自殺せよ」と強要したことがないヒットラーが、敗戦時に、捕虜にならずに自殺し、「戦陣訓」を説いた東条英機が、自殺に失敗して捕虜になったことです。

【問題】

1941年10月、東条英機は首相となり、12月には、米国と英国に宣戦布告して、大東亜戦争が始まりました。宣戦の詔勅には、これまでのものと違って「国際法規に則って戦え」などとする文句が消滅していました。

そこで、連合国は、日本に対し「日本が批准しなかった捕虜の取り扱いに関するジュネーブ条約を、戦争で適用して欲しい」という要求書を出しました。

では、政府はどのように回答したと思いますか。

予想

- ア 批准していないので適用できない
- イ 準用する
- ウ 適用する
- エ そのほか

捕虜取り扱い問題

政府は、中国との戦争を「戦争ではない」として、国際条規の適用もしませんでした。大東亜戦争においても、東条は「日露戦争の時は、文明国と認めてもらうために、捕虜を優遇したが、いまはそんなことをする必要がない。たとえ捕虜であろうと、ひとりとして無為徒食するものがあるのは許さない」としていました。

しかし、米英との戦いは、宣戦布告もある「正式の戦争」でした。そこで政府は「ジュネーブ条約を日本は批准していないが、準用する」と回答したのです。

外国との条約は、国内法規よりも優先されます。そこで連合国は、日本の「準用」という回答を「批准と同等に扱う」と理解しました。しかも、日本政府は、ハーグ条約を破棄していませんでしたから、ハーグ条約における戦時国際法には、従う義務があったのです。

事実、軍部は「捕虜取扱規程」で、「支那戦場とは違うので国際法に則り、捕虜は人道的に扱うこと」としていました。

【問題】

では、日本は英米兵士捕虜を人道的に扱ったのでしょうか。ドイツやイタリアでの連合軍捕虜死亡率は4%ほどでしたが、日本での連合軍捕虜死亡率は、どのくらいあったのでしょうか。

予想

- ア 2倍以上
- イ ほぼ同じ
- ウ 半分以下

「おかわいそう事件」

開戦後、軍部は「労務は過度すぎないように、また軍事に関係ない労働に限る」としていた「俘虜処理要綱」を変更し、戦時国際法に違反して「白人俘虜は生産拡充並びに軍事上の労務に利用」として、強制労働させました。また、もともと補給の概念に乏しい日本軍は、多量の捕虜の食料や移動手段を確保することができず、「パターン死の行進」などで多くの死者を出しました（軍部は「米軍の捕虜は衛生状態が悪い。パターンで多数の死者が出たのは米軍の責任」と公言）。こうして、捕虜死亡率は、ドイツ・イタリアの7倍近い27%でした。

日本本土で強制労働させられている米兵捕虜を見たある夫人が「おかわいそうに」と発言したことがありました。このとき大本営は「これは白人崇拜、親米感情である」として「打破せよ、心の中の米国」というキャンペーンを始めました。

1942年10月、東京は初めての空襲を受けました。大本営は、捕虜にした爆撃機搭乗員を、「無差別爆撃は国際法に違反し、死刑とする」という事後立法により処刑しました。また「俘虜処罰法」を改正して、「看守の命令に従わない者、看守を侮蔑する者」も処罰の対象としました。つまり捕虜の監督官は恣意的に捕虜を処罰することが認められたのです。フィリピン駐屯軍は「悪質な捕虜は密かに闇に葬ること」としていました。

【問題】

開戦初日、真珠湾でひとりの日本軍兵士が米国の捕虜となったのを初めとして、その後、フィリピンでも墜落した戦闘機のパイ

ロットが捕虜になりました。

大東亜戦争で、日本は捕虜になった日本兵をどのように扱ったと思いますか。

予想

- ア 自決を強要した
- イ 厳格に処分した
- ウ そのほか



軍人勅諭の碑(岡山大学)

1932年(昭和7年)4月、軍人勅諭「下賜」50周年を記念して陸軍兵器本廠岡山出張所の職員が建立した碑。旧軍の建物であった学生部事務棟(現在は取り壊され駐車場になっている)の玄関前付近に現存。砲身型の碑の中央にはめこまれた碑文は敗戦時に撤去されたが、のちに復元された。

捕虜は存在しない

真珠湾攻撃で、海軍はそれぞれ 2 名が乗り組んだ特殊潜行艇 5 隻を真珠湾に潜入させていました。潜行艇はなんら戦果を上げることはなく、そのうち一隻は、整備不良のまま出撃したため、途中で座礁し、二名の乗組員のうち、一名は死亡、もうひとりの酒巻少尉が捕虜第 1 号となりました。

米国はジュネーブ条約に基づいて、捕虜のことを日本に通知してきましたが、日本政府の態度は「神国日本には捕虜はあり得ない」というものでした。海軍は、酒巻少尉の存在を抹消して、潜行艇の乗組員を「二階級特進の九軍神」としてその大戦果を讃え、新聞各紙は、それを熱狂的に報道しました。

フィリピンで被弾、不時着して捕虜になった原田飛行兵曹ら 8 名は、すぐに進撃してきた友軍により解放されました。しかし、一度捕虜になった彼らは、ほかの兵士とは隔離され、危険度の高い任務を与えられて死ぬことを強要されました。しかし、彼らは生還し、ついに司令部は「捕虜は許されない。貴官らは、これまでの（死ぬ）機会を生かせなかった。これより爆弾を抱えて敵基地に自爆攻撃をせよ」との命令を下しました。単機で飛来した原田機に対して、米軍基地は、一切の攻撃を行いませんでしたが、原田機は「我、今より自爆せんとす。天皇陛下万歳」との連絡の後、敵基地を外して地面に突入し自爆しました。

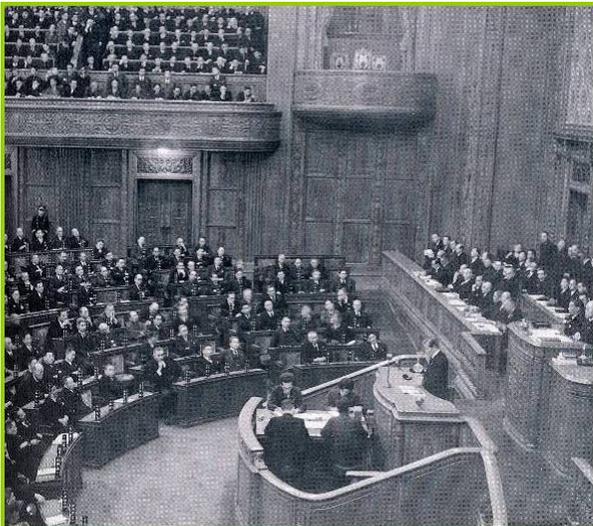
同様に、フィリピンにおいて戦闘不能状態で捕虜になった日本兵 50 名は、その直後に友軍により解放されましたが、指揮官は自決を命じられ、兵士たちは、最も危険な任務につけられました。

【問題】

大東亜戦争では、下士官や士官ではなく、将官が捕虜になるという前代未聞の事件がありました。悪天候で不時着した航空機に乗っていた海軍中将ら 8 名が機密文書と共に、フィリピンゲリラの捕虜になったのです。日本軍がゲリラと交渉して、数日後に中将らは解放されましたが、機密文書は米軍に渡ってしまいました。では、軍は「捕虜になった将官」をどう処分したでしょうか。

予想

- ア 死刑などの重罪にした
- イ ふつうの士官と同じく自決を強要した
- ウ もっと軽い処分にした
- エ そのほか



衆議院本会議
で戦争政策批判の演説をする
斉藤隆夫(1940〔昭和15〕年2月2日)

海軍乙事件

海軍に於いても「捕虜の忌避」は絶対でした。しかし、海軍は「どんな規定にも例外は存在する。ゲリラは敵の兵とはみなせない。機密文書も渡っていない」として、中將が捕虜になったことを不問に付し、口封じのために、一緒に捕虜になった者たちを昇進させました。そして、中將も航空艦隊司令長官に昇進しました。

この事件の3か月後、サイパン守備隊の南雲海軍中將は、戦陣訓を引用して玉砕命令を出し、兵士だけでなく多くの民間人も「バンザイ崖」から身を投じて死にました。

また、マニラ死守を強固に主張し、「自分も後に続くから」と62回の特攻を指揮していた富永陸軍中將は、米軍がフィリピンに上陸してくると、単独で台湾に脱出しました。これは陸軍法規で死刑とされている敵前逃亡でしたが、予備役に編入されたあと、すぐに再び軍司令官となりました。

【問題】

では、大東亜戦争において連合国は、日本兵捕虜をどのように扱ったのでしょうか。人種的偏見から虐待や冷遇をしたのでしょうか、それとも人道的に扱ったのでしょうか。

予想

- ア 虐待などをした
- イ 人道的に扱った
- ウ なんともいえない

「死は鴻毛よりも軽し」

「真珠湾を忘れるな」として日本軍に立ち向かった米兵のほとんどは、強い正義感を持つ志願兵でした。彼らは、日本軍が米兵捕虜を残酷に扱っているのも知っていましたから、開戦当初は、復讐として日本兵捕虜は虐殺されていました。また、戦時国際法を知らない日本軍は、降伏すると見せかけて、米兵を油断させてから殺害したりしていましたから、余計に米兵は日本兵を捕虜にしようとはせずに、殺しました。さらに、日本兵は、捕虜になると「殺してくれ」と嘆願しましたから、その「願い」を叶えてやった米兵も少なくなかったのです。

そこで米軍は、「捕虜獲得者には休暇を与える」と宣伝し、「捕虜を優しく扱え」と命令して、ようやく日本兵捕虜がたくさん集められるようになりました。

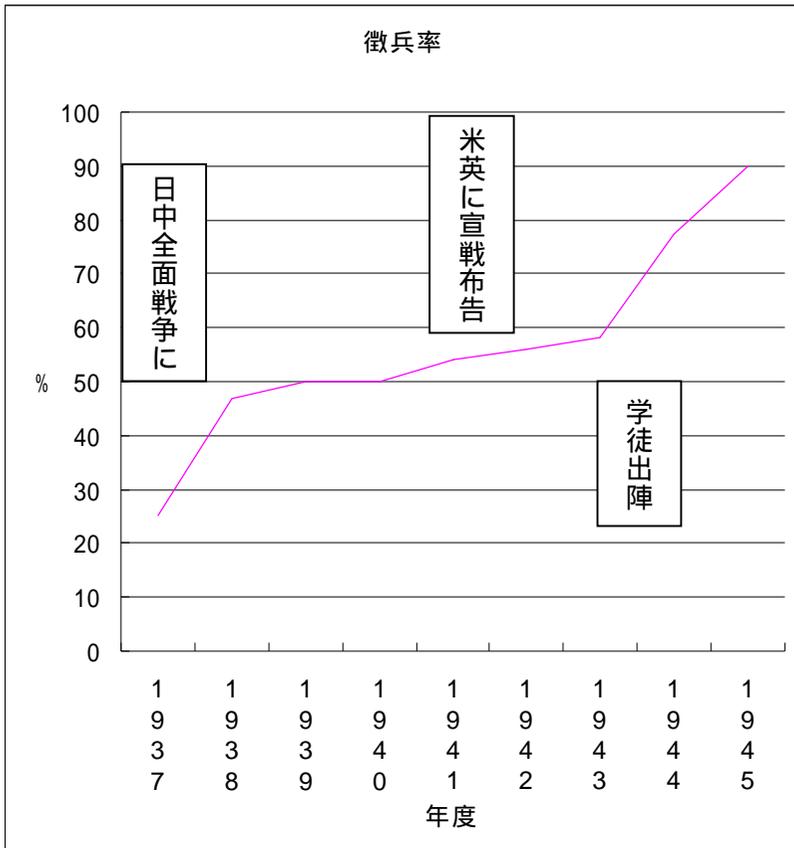
捕虜は概ね人道的に扱われ、将校には月額 0 ドルの給与、兵士には日額 80 セント（タバコが 8 箱買えた）の労賃が与えられました。

日本軍は、兵に「死は鴻毛よりも軽しと覚悟せよ」（軍人勅諭）と死ぬことばかりを教え、兵士の人命を尊重することはありませんでした。戦闘機には乗員を守る防弾装備は一切なく、それに気がついた連合軍は、空戦で乗員をねらい撃ちすることで優位を確立しました。また、戦闘機などにはパラシュートの装備もありませんでした。また、大東亜戦争における溺死者は 35 万人で世界的に例がないほどでした。これも船舶に救命胴衣や浮き輪などがなかったからです。

またニューギニア戦では、一戦も交えなかったのに、1 万の日本軍のうち生還したのは 800 名でした。残りは、みな餓死したの

です。大東亜戦争での戦死者のうち6割が餓死者でした。

そのために政府がしたことは、徴兵の拡大でした。大東亜戦争末期には、在学生の徴集延期制が廃止され、学徒出陣が行われました。また、兵役年齢の上限が45才まで引き上げられると共に、徴兵適齢が下げられて、19才から徴兵されるようになり、敗戦前には徴兵検査前の17~18才の者も召集するようになりました。



こうして徴兵制度開始当初3%程しかなかった徴兵率は90%にもなりました。しかし、「消耗品」である兵は、現役徴集だけでは足

りず，現役の倍以上を，もともとが「臨時部隊編成や欠員補充」が目的だった「臨時召集」という制度で召集していました。それが「赤紙」です。これらの召集兵の士気が低く軍紀に乱れがあったのは，前に述べたとおりです。

【問題】

かつては徴兵忌避が問題だった国民は，大東亜戦争の開始で，徴兵忌避がほぼ不可能になり，こんどは「赤紙」を恐れるようになりました。

1943年1月，内務省は「米英系音楽の演奏禁止」を通達しました。これに対し，国民はどんな反応をしたと思いますか。

予想

- ア 積極的に従った
- イ 不本意ながら従った
- ウ 反発する者も少なくなかった
- エ そのほか

魔女狩り

「赤紙」を国民は恐れていたのにもかかわらず、「赤紙」は「おめでとうございます」と配達され、「待ちに待ったときが来ました。これでお国のために奉仕できます」と受け取った者はこたえていたのです。国民生活は、戦費調達のため、タバコなどが一斉に値上げされ、多くの物資が統制され困窮を深めていました。また、パーマ禁止、男子はゲートル、女子はもんぺなどと、江戸時代のような生活指導が強まりましたが、それらは国民が自ら行ったのです。

だから「米英系音楽演奏禁止」の通達にも、音楽家は積極的に協力し、「魔女狩り」を開始しました。「蛍の光」は「英国民謡」という理由で卒業式から追放され、代わりに NHK が「重要人物用の番組内でのテーマ曲」として作曲させた「海ゆかば」が歌われました。「海ゆかば」は文部省によって「準国歌」とされました。

この「魔女狩り」に国民も積極的に協力しました。物質統制でゆとりがなくなり、「赤紙」の不安におびえる国民の不満は「非国民」へと向けられたのです。「米英系音楽演奏禁止」は「英語追放運動」にまで広がり、大衆は、他人の家に押しかけては、洋書を焼き捨てたり、レコードを割ったりしました。

学校でも、教師は軍隊式教育を積極的に導入し、従わない者は「非国民」として吊し上げられました。「職員室入退時の礼儀」などというものも、この当時のものが現在でも残っているのです。

学徒出陣が決まったとき、帝国議会の議員たちは「これで農村の不満も減る」と喜んだそうです。国民は不幸の根源を取り除くのではなく、「不幸の平等化」によって、苦痛を緩和してきたのです。

【問題】

ふつつ戦闘で部隊の4分の1の死者が出ると、部隊は戦闘を放棄して投降します。しかし、日本兵は違いました。どんなに死者が出て、降伏せずに戦い続けたのです。だから捕虜になった日本兵は、そのほとんどが意識不明などの不可抗力によるものでした。

そして、捕虜となった日本兵は、ただひたすら死を求めました。これに対し米国は人道的に優遇したわけですが、その結果日本兵の態度は、どうなったと思いますか。

予想

- ア ひたすら死を求め続けた
- イ 反抗的になった
- ウ 協力的になった



米軍尋問マニュアル

日本兵は、自分たちの捕虜に対する行為から、「自分たちも捕虜になると拷問されて殺される」と信じていました。しかし、敵国の好待遇と親切を受けているうちに、日本兵は米軍に大変協力的になったのです。日本兵は「捕虜となるよりも死ね」としか教えられておらず、「捕虜になった場合にどうしたらよいか」の教育を一切受けていませんでした。そこで、戦時国際法では「捕虜の義務は階級と名前を述べることだけ」だったのに、日本兵捕虜は積極的に米軍の軍事行動にも協力したのです。

そこで米軍は「尋問マニュアル」を作成し、そこには「拷問され殺されると思いこんでいる日本兵は、親切にしてやるとメンツもあって何かお返しをしたくなってくる。繰り返す、捕虜を優しく扱え」となっていました。日本人は「一宿一飯の義理」を返さないと思心度が悪かったのです。また、これは、思考停止と絶対服従を要求する教育の必然的な成果とも言えます。捕虜になって、日本からは「戦死」となった彼らは、米兵を新しい教師や上官として従ったのです。

【問題】

1944年7月のサイパン玉砕で東条内閣は総辞職し、翌月閣議は国民総武装を決定し、「武器」(竹槍)が国民に渡されました。そして同じ月、オーストラリアのカウラ捕虜収容所では、1000名の日本兵捕虜が暴動を起こし、200名以上が死亡しました。

なぜ敗戦濃厚のこの時期に、日本兵捕虜は暴動を起こしたのでしょうか。日本兵捕虜は、収容所で虐待されたので、暴動を起こ

したのでしょうか。まず、収容所の生活を予想してみてください。

予想

- ア 自由自在で快適な生活だった
- イ 強制労働もあったが人道的だった
- ウ 虐待されていた



カウラ捕虜収容所

収容所には豊富な食料があり、日本兵が「魚が食べたい」といえば、次の日には魚が出てきたほどでした。労働はほとんどなく、ほとんどが自由時間のため、捕虜たちは手作りの道具で麻雀、花札、野球、演劇などでたのしむ生活を送っていました。

1000名の捕虜は40班に分かれて、それぞれの班長や全体の責任者である団長は、軍隊の階級でなく、民主的に選挙で選ばれていました。というのも、捕虜のほとんどが階級や氏名を「宮本武蔵」「長谷川一夫」のように偽っていたからです。それは、何よりも「自分が生きて捕虜になっている」ということを日本に知られたくはなかったからです。そして、収容所のことは、班長会議ですべてが決定されていました。

【問題】

収容所の日本兵捕虜は、「ときがきたら決起して、軍人として死のう」と主張する強硬派と、そのようなことはあまり考えない穏健派と分けることができました。では、強硬派の比率は、どれぐらいだったのでしょうか。

予想

- ア ほとんど全部
- イ 過半数
- ウ 半分ぐらい
- エ 少数派

陸軍兵と海軍兵は、どちらが強硬派だったのでしょうか。

海軍兵と陸軍兵

カウラでは、海軍兵と陸軍兵が1対4の割合であり、概ね海軍兵が強硬派、陸軍兵が穏健派で、その比率は3対7程度でした。海軍兵は、艦船の沈没などで、元気なうちに捕虜になることが多く、また艦隊勤務では武器を携帯しておらず、泳げる人間がおぼれるのも困難で自殺もできず、自責の念も強かったのです。そこで、強硬派は、「敵軍の資源を消耗させるため」に、食事を多量に支給してもらっては、故意に捨てたり、収容所側の命令にいちいち逆らったりしていました。それに対して、穏健派の中心であった陸軍兵は、ジャングルなどで飢餓状態になって、人事不省で捕虜になることが多く、収容所での生活は「死線をくぐり抜けての生」だったのです。

【問題】

暴動は、オーストラリア側から「収容所が手狭になってきたため、捕虜の半数を三日後に別の収容所に移動させる」という通告がきたことがきっかけでした。

その通告に対して、早速班長会議が開かれましたが、その様子はどんなものだったのでしょうか。

予想

- ア 暴動を起こすことを議論した
- イ 命令に従うことを議論した
- ウ 特に意見は出なかった
- エ そのほか

引っ越し準備

数時間にわたる班長会議では、特に何の意見も出されませんでした。穏健派にとっては、移動させられることは、特に文句を言うほどのことではありませんでしたが、強硬派はどうだったのでしょうか。「ときがきたら決起しよう」と主張してきた強硬派にとって、この「半分を移動させる」という命令は受け入れがたいものでした。人数が半分に減っては、効果的な暴動は起こせないからです。ですから、強硬派にとっては「決起する 때가来た」のですが、そのような主張はありませんでした。強硬派といっても、本気でそんなことを考えていたわけではなかったからです。実際、暴動の準備はなにひとつしていなかったのです。

さりとして、強硬派から「命令を受け入れる」とは言えませんし、穏健派も強硬派に配慮して、意見を出さなかったのです。こうして、ただただ「どうしたものかね」「まあしょうがないね」などの話だけで、点呼の時間が来たために、会議はいったん中断となりました。

会議の間も、捕虜たちはせっせと引っ越しの準備を始めていました。送別会の準備をする者や、移動による野球チームのレギュラーや演劇の配役をどうするかがもっぱらの関心事だったのです。

こうして、点呼の後に再開された会議でも、特に意見が出ることはなく、時間が過ぎていきました。そんなとき、下山と名乗っていた班長が「貴様ら、それでも軍人か。こんなことをしておってもどうにもならん。帝国軍人たる者、敵に攻撃を加え、ひとりでも多くの敵を殺して、自決すべきではないか」と言い出したのです。そして、別のひとりの班長が、それに賛同しました。しかし、ほかには意見は出ず、結局、民主的に「全員の投票で決める」

ということになりました。

【問題】

暴動の目的は「敵弾で死んで、捕虜の汚名を消すこと」でした。それに「賛成か反対か」かが、各班で「 」「×」を書く無記名投票で問われました。では「 」とした賛成票の割合は、どれくらいだったでしょうか。

予想

- ア 8割以上
- イ 6～7割
- ウ ほぼ5割
- エ 3割以下



カウラ捕虜収容所跡地

多数決

班長会議では「それでも軍人か」と言われると、誰も反対できませんでした。しかし、捕虜のほとんどが「暴動による死」を望んでいないのは明白でしたから、多数決で暴動を否定しようとしたのです。そして、投票の結果、約 8 割が「賛成」でした。

その 8 割の捕虜は、暴動に賛成だったのでしょうか。いいえ、そうではありません。「本心は反対だったが、ここが年貢の納め時だ」「仕方がない」「生きて帰りたいが、日本軍人だからみんな一緒に死ななければならぬ」という気持ちだったのです。そして、一番大きい理由は、「自分は 非国民 と言われたくないから、を付けるが、多くの良識ある者たちは×をつけるだろう」と無責任にみんなで思っていたことなのです。それは、現在の選挙でも同じ、民主主義の恐ろしさです。

もちろん「こんなところで死ぬのは嫌だ。生死の問題を多数決で決めるのはおかしい」と×をつけた人たちもいました。しかし、「×つけたが、非国民といわれたら、恥ずかしいとその後心底後悔した」という人もいたのです。

投票後の班長会議で、誰もが否決されるだろうと思っていた暴動は、多数決により決行されることが決まりました。民主主義のシステムに逆らえなかったのです。会議では、暴動の目的が次のように決まりました。「わが軍は非常に不利な戦いをしている。それに協力できる道はただひとつ。暴動を起こし、わが軍の戦意を高揚させ、合わせて敵の心胆を寒からせしめ、敵の戦意喪失を図ると共に、収容所の警備を強化させて、前線への兵士兵器を少なくさせる。こうして、一度戦死した我々が再度国にご奉公できることになり、敵兵の銃弾で死ぬことができる」つまりは「死ぬこ

と」のみが目的だったのです。だから、暴動の計画は「二手に分かれて脱走して 500 メートル先の丘に集合する」というだけで、その後の計画は何もありませんでした。

会議の後、捕虜たちは口々に「どうしてこんなことになったのだ」と話しました。しかし、会議では反対意見は出されなかったのです。暴動の生存者は後に「会議では意見を言わず、終わってから文句を言う」という日本人の悪い面が出た」と語っていました。

こうして移動の準備は、突然暴動の準備に変わりました。鉄条網を乗り越えるための毛布や、武器が集められました。武器といっても、野球のバットや食事用のナイフなどだけで、暴動が計画的でなかったことを表していました。

【問題】

収容所には、傷病で身体の不自由な人や、軍に徴用された漁船の乗組員などの軍人ではない人もいました。これらの人も暴動に加わったと思いますか。

予想

- ア 参加した
- イ 参加しなかった
- ウ 自決させられた

「お先に失礼します」

暴動を主張した人たちは、暴動に先立ち、宿舎を焼き払い、暴動に参加できない者には自決を求めました。そこで身体の不自由な者たちは、「お先に失礼します」といって、首を吊っていきました。それを止める者はいませんでした。暴動の目的は「死ぬこと」で、参加した者も死ぬ定めだったからです。また、「もう人を殺すのは嫌だ」と言って自殺した捕虜もいました。

軍人ではない者たちには迷いがありました。しかし、「みんな同じ行動が求められる」のが日本人です。暴動に生き残ったある捕虜は「軍人じゃない人たちに、どうして 兵隊じゃないのだから死ぬ必要はない」と言ってあげられなかったのか」と今でも後悔しています。

そして、深夜、「デデクルテキハミナミナコロセ」の突撃ラッパを合図に、1000名の捕虜が脱出を目指して、宿舎に火を放って鉄条網へと向かいました。オーストラリア兵は、最初は威嚇射撃を

しましたが、ひるまずに突入してくる日本兵を機関銃で倒していきました。計画性の全くない暴動は「みんなで押せば門は破れる」としていましたが、門はびくともせず、次々と撃たれて死んでいきました。



現在のカウラ収容所跡地

【問題】

それでも 300 人以上が脱出に成功しました。では、脱出した者たちは、その後どうしたと思いますか。

予想

- ア ゲリラとなった
- イ 民間人を殺戮した
- ウ 自決した
- エ そのほか



カウラ事件を伝える現地の新聞

目的は死ぬこと

目的の丘に集合した者たちのうち何人かは、そこで自殺しました。オーストラリア軍が丘を包囲したとき、捕虜たちは「殺してくれ」と頼みましたが、オーストラリア軍は捕虜たちを逮捕しただけでした。司令官は「脱走した捕虜たちは武器を持っていないから、発砲するな」と指示していたのです。

この脱走は、「残酷で狂気の日本兵が脱走した」として地域の住民をパニックに陥れました。しかし、実際に住民たちに発見された捕虜たちは、住民たちに危害を加えることなく自殺するか、大人しく逮捕されていきました。ある捕虜は、農家の納屋に隠れているところを住民に発見され、食事のもてなしを受けた後、お礼を言ってから、駆けつけてきたオーストラリア兵に逮捕されました。そのとき捕虜が使った食器は、いまでもその家に大切に保管されているそうです。

こうして、脱出した全員が10日もしないうちに全員逮捕されたのでした。結局、暴動による死者は、射殺183名、自殺31名、焼死体12名、そのほか5名の231名とオーストラリア兵4名でした。暴動の結果、捕虜たちが一番驚いたことは、暴動を主張した人たちの多くは、暴動に参加しておらず、多数が生き残っていたことでした。特に、暴動のきっかけとなった下山班長は生き残ったことを捕虜たちに詰問されて、首つり自殺させられました。

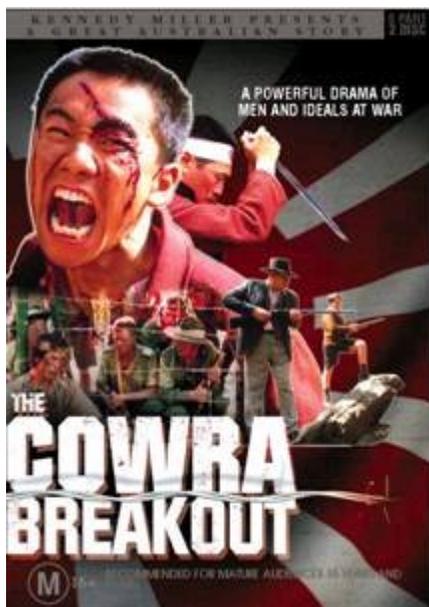
暴動の後、カウラ収容所の別の地区に収容されていて暴動に参加できずに死ねなかった将校捕虜は「我々の暴動への関与は明白であるから、将校全員を銃殺にしろ」とする要求を収容所に出しました。

【問題】

オーストラリアは、この暴動に参加した捕虜たちをどう扱ったと思いますか。

予想

- ア 責任者だけを処罰した
- イ 全員を処罰した
- ウ 特に何もなかった



カウラ事件はオーストラリアで TV 映画化された

天皇の責任

オーストラリアには、「なぜこんな事件が起こるのか」が全く理解できませんでした。捕虜の目的は、ただただ「天皇陛下バンザイ」と行って死ぬことだとしか思えなかったのです。キリスト教徒にとって、自殺は罪でしたし、捕虜になるということは「最前線で戦っていた証拠」で名誉なことだったのです。また、戦場で米兵はルーズベルトの悪口を言われても「よく知っているな、その通り」と応じていたのに対して、日本兵は天皇の悪口を言われると激昂していました。そこでオーストラリアは、「天皇への崇拜が日本兵をこの狂気に走らせた」と考え、天皇の戦争責任を戦後一貫して追及しました。

オーストラリアは、「暴動を計画した」として団長のみを裁判にかけ、敗戦まで禁固刑としました。ほかの捕虜たちは一切罪を問われることなく、それまでと同じ待遇を得て、全員がほかの収容所へと移送されていきました。また、死者は、日本人墓地に埋葬



され、戦後も現地の退役軍人会が管理をつづけました。日本が、その管理を引き継いだのは、戦後 20 年がたってからでした。

カウラ日本人墓地。

右手前の木は、かつての皇太子（現在の天皇）が植樹したもの

【問題】

オーストラリアは、事件の顛末と捕虜名簿を日本に届けました。
では、日本政府はどんな反応をしたと思いますか。

予想

- ア 死者を軍神として宣伝した
- イ 全く無視した
- ウ 事実をねじ曲げて報道した



カウラ暴動で日本兵が用いた「武器」

「日本軍人は決して捕虜にはならない」

日本政府はこの連絡を完全に無視しました。「戦意向上」をひとつの目的としたこの暴動も無駄だったわけです。ただ、インドネシア日本軍占領地英語放送のみがこの事件を次のように伝えていました。

「200 人を越す無実の日本人が深夜虐殺された。不幸にも亡くなった人々が軍人であろうはずがない。オーストラリアに暮らしていた民間人抑留者である。周知の通り、日本軍人は決して敵の捕虜にはならない。捕虜になって不名誉や屈辱を受けるぐらいなら、日本軍人は自決の道を選ぶ」

そして、翌年には「オーストラリア軍の行為は、民間人を虐殺する人道に対する許し難い侵害である。日本人に対してこのような行為を取るなら、日本も報復措置を執る」とオーストラリア政府に抗議しました。



鉄条網を乗り越えるためにかけられた毛布と死んだ捕虜

カウラ事件でも「捕虜になるよりも死」の信念が民主的制度で強制されました。兵士にとっては、捕虜になることは、家族に禍をもたすものでしかなく、玉砕して靖国にまつられることだけが遺族に残せるかけがえのない遺産でした。しかし、これは、日本国民の共通理解として、兵士だけでなく、日赤従軍看護婦にも、沖縄戦での民間人にも押しつけられ、死を強要したのです。

『菊と刀』のベネディクトは「玉砕や神風などの言葉は ぼんやりとしたロマンチズムで死を覆い隠そうとする日本人の本性」と書いています。

【問題】

1945年3月、米軍は沖縄に上陸し、初めて本土で地上戦が行われました。この戦争では、日本軍6万人が死にましたが、沖縄住民の死者数はどれくらいだったのでしょうか。この戦争では、米軍は無差別爆撃をしていません。

予想

- ア 3万人ぐらい
- イ もっと少ない
- ウ もっと多い

義勇兵

沖縄戦での住民死者数は約 10 万人で兵士よりも多くの者が死にました。それは、政府が内地では立法前の「義勇兵役法」を沖縄で実施したからです。これは「本土決戦のため、15 才から 60 才の男子、17 才から 40 才の女子を国民義勇戦闘隊に編制する」というもので、また基準年齢以下の者でも志願すれば義勇兵となれるものでした。そこで学校では、教師が子どもたちに「志願票」を配ってまわりました。

こうして日本軍は、住民のほとんどを義勇兵として使ったのです。義勇兵には軍服の着用は認められず、武器は竹槍しかありませんでしたが、時間稼ぎの捨て石としては十分でした。また兵であるからには、投降は認められず、自決が強要され、日本兵に殺された集落も少なくありませんでした。

このような兵であっても、戦時国際法上は「交戦者」として認められるため、米軍にとっても、日本兵と住民の区別がつかなかったことでしょう。ただし国際法にある「公然兵器を携帯する者」の兵器の規定に竹槍が含まれるかどうかは、難しいところです。

しかし、もし内地で地上戦が行われたならば、沖縄戦のようになっていたことだろうことだけは確かなことです。

8 月、原子爆弾が落とされても大本営は「被害は比較的僅少な見込み。新型爆弾に対しては、白いものを着るか、物陰に隠れることが被害を少なくする」としていました。当時、日本軍はまだ 700 万以上の兵力があったのです。

しかし、連合国が驚いたことに、8 月 15 日、天皇のひとことで本土 370 万、外地 350 万の大兵力は、武器を置き、各部隊では、勝手に帰郷する者や逃亡する者が相次ぎました。そして、連合国

軍が進駐しても、これにゲリラとして戦う者はいませんでした。このことは、日本人が何のために戦っていたのかをよく表しています。

【問題】

捕虜になることを軍も国民も許していませんでした。しかし、敗戦によって、多くの軍人が捕虜となる事態となりました。そこで、政府や軍は、どうしたと思いますか。

予想

- ア 特に何もしなかった
- イ 戦陣訓を廃止した
- ウ 「これから敵に降るものは捕虜ではない」とした
- エ そのほか



カウラ事件で手に持ったナイフで自殺した捕虜

天皇

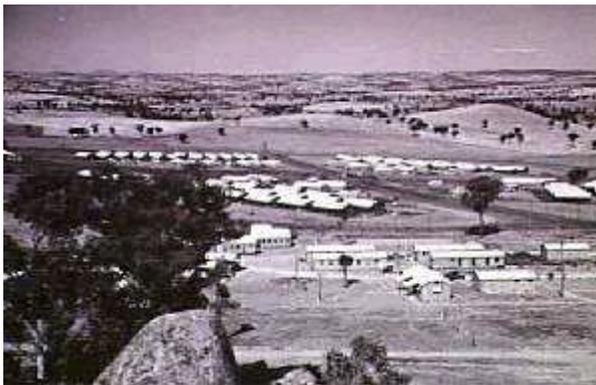
「生きて虜囚の辱めを受けず」の精神から言えば、敗戦後であっても、捕虜となった者には「死あるのみ」でした。そこで 18 日に、天皇は「今次敵に降る者は、捕虜とみなさず」という勅命を出して、日本軍の降伏を促すと共に、自決を止めました。

【問題】

しかし、捕虜でなくなることは、戦時国際法の適用を受けなくなることでした。それでは、連合国は、この天皇の要請に従って、敗戦後の捕虜は、それまでの捕虜とは別に扱ったのでしょうか。

予想

- ア 要請に従った
- イ 今までと同じく捕虜として扱った
- ウ そのほか



カウラ捕虜収容所

降伏日本人

この天皇の要請に、ソ連は従いませんでしたが、ほかの連合国は従いました。つまり、捕虜ではなく「降伏日本人」という名称で扱ったのです。しかし、「降伏日本人」は捕虜ではないため、戦時国際法の適用を受けません。そこで連合軍は、一部の捕虜を強制労働に使用したので、日本政府は「降伏日本人を通常の捕虜より悪い扱いをして良いと考えないように」と要請しました。

また、東条英機は天皇の勅命には従わず「部下たちには捕虜になるな死を選べと戦陣訓で教えていたので、自分もその通りにした」と拳銃自殺を試みました。しかし、自殺に失敗し、かけつけた外国人記者らは、血まみれの東条の衣服を切り取って記念にしたり、東条と一緒に写真を撮ったりしました。「虜囚の辱め」を受けてしまったわけです。

東条は自殺未遂の際に、次のような遺書を残していました。「英米諸国人に告ぐ。諸君の勝利は力の勝利にして正理公道の勝利にあらず」「日本同胞国民諸君。大東亜戦争は彼より挑発せられたるものにて、我は国家生存、国民自衛のため、やむをえず起ちたるのみ」

【問題】

天皇は「敗戦後に降った者は捕虜ではない」としただけですから、それまでの捕虜は、敗戦後もやはり捕虜であり続けました。戦後に米国国務省が日本人捕虜に「今後の希望」を聞いたところ、「帰国ではなく、自決や処刑を望んでいる者」はどれぐらいいたと思いますか。

予想

ア ほとんどいなかった

イ 半数ぐらいいた

ウ 多くの者がそうだった



Left, the Cowra War Cemetery and Right, the relic foundations of the POW camp. (Photographs courtesy Cowra Shire Council.)

<http://www.anzacday.org.au/history/ww2/anecdotes/cowra.html>

捕虜の願い

米務省が2000人の日本人捕虜を調査した結果、3分の2が「捕虜になったことを恥と考え、家族への通知や原隊復帰を望んでいない」ということがわかりました。また捕虜の75%が「自決か処刑を希望」していたのです。

実際、戦争が終わっても、捕虜たちは帰国して良いものかどうかとまどっていました。彼らは、捕虜になった時点で、すでに戸籍上は死亡となっていましたから、妻が再婚していることもあったのです。また、敗戦後、連合国から詳細な捕虜名簿が渡されても、日本政府は家族に「名誉の戦死」と伝え続けました。捕虜を許さなかったのは、何よりも日本国民であり、家族が被害に遭うことを防止しようとしたのです。

しかし、捕虜たちが帰国する日が近づいていました。

【問題】

敗戦の一か月後、政府は閣議決定で、帰還する捕虜の扱いを定めました。ではその内容はどうだったのでしょうか。

予想

- ア 取り調べて処分する
- イ 捕虜だったことは隠して帰還させる
- ウ 捕虜として帰還させ、捕虜に対する考えを変えさせる
- エ そのほか

捕虜の汚名

閣議決定は「捕虜たる軍人軍属は、隠密裡にこれを受領し、復員将兵として自然に帰郷させる。捕虜になったことによる捜査や処分は行わない。戸籍を戻して、死亡賜金を返還させる。捕虜の期間は戦地勤務として軍人恩給を支給する」というものでした。

こうして捕虜たちは、一般の復員兵と同様に帰郷して行きました。ほとんどの場合、帰郷しても、彼らは自分たちが捕虜だったことを話すことはなく、それを隠しながら生きたのです。捕虜になっていたある日赤従軍看護婦は、帰国後赤十字本社へ行ったところ、頭ごなしに「貸与した制服や水筒はどうしたのか」と詰問されました。



カウラの日本庭園 / © National Archives of Australia A6135, K15/2/80/

【問題】

1964年、カウラ日本人墓地は整備され、オーストラリア各地から集められた275名分の日本兵遺骨も一緒に埋葬され、墓地は日本に永久貸与となりました。カウラ暴動での生存者たちはカウラ会を結成し、翌年には、第一回カウラ国際祭が現地で開かれました。

では、カウラ暴動生存者800名のうち、カウラで捕虜だったことを認めて、カウラ会に入会したのは何人ぐらいいたと思いますか。

予想

- ア ほぼ全員
- イ 7~8割ぐらい
- ウ 半数ぐらい
- エ 2~3割ぐらい
- オ もっと少ない



カウラ日本人墓地

世界平和の鐘

カウラ暴動で生き残った 800 名のうち、帰国して捕虜だったことを認めたのは、半数以下の 300 余人であり、そのうちカウラ会に入ったのは、80 人だけでした。多くの捕虜は、ずっと捕虜だったことを隠しながら生きていたのです。だから、カウラの墓地にある墓碑銘も、そのほとんどが偽名のままです。彼らの偽名による死は、なんのためだったのでしょうか。

それでも、カウラ会の人たちは「誰にも事件のことは言わなかったが、今の若者には残したい」と活動を続け、1979 年には、カウラ日本庭園が開園されました。さらに、1990 年には「世界平和の鐘」がオーストラリアにも設置されることになり、その場所はカウラと決定しました。

「世界平和の鐘」とは、1954 年に戦争の悲惨さ、核廃絶、平和の尊さを訴えるため日本で作られた組織で、当時の国連加盟国 65 か国の硬貨を融かして鑄造した「世界平和の鐘」が国連本部に寄贈されました。その後も、世界各国の硬貨で作った「世界平和の鐘」が世界各国に設置され続けています。



国連本部前の世界平和の鐘

エピローグ

戦後、東京裁判の裁判長となったオーストラリアのウェブ最高裁判所長官は「日本に無条件降伏をもたらせた天皇の権力を考えれば、もし天皇が軍や国民に残虐行為やその他の戦争法規違反行為を思いとどまらせるように命令したなら、日本人はすぐに従ったであろう」と述べました。

また、カウラ事件を取り上げた本や番組は「カウラの悲劇は、言葉の呪縛が何を起こし、何を失わせるのか、今に語りかけています」と「戦陣訓の呪縛」を問題にしています。

でも、本当にそうだったのでしょうか。

カウラ事件での生き残りの一人は、カウラ事件のいきさつを「今の民主主義と一緒に。自分が を付けても、みんなは暴動など起こさないだろう」と甘い考えだった。ハッキリ言って、民主主義はどっちへ動くかが怖い」と話しています。

カウラ収容所での快適な生活の中で、「暴動による死」が民主的に決められたことは、けっして過去の問題ではないことは、たし

かなことです。



おわり

カウラ市役所前の世界平和の鐘

あとがき

NHK の番組を見て「民主的に集団自殺」が決行されたことに驚きました。番組やほとんどの本では「戦陣訓の呪縛」を問題にしていますが・それはけっして押しつけられたものではありませんでした。捕虜が死を選んだのも・「捕虜が戦陣訓に縛られていたため」というよりも・「国民全体が戦陣訓に縛られていたため」といえます。国民が何かにとらわれているときの「民主主義」は危険なのです。それを実証したのがヒトラーです。

徴兵制については・ほとんど研究されていなくて驚きました。時間があれば・原典に当たって・もっともっと研究してみたく思っています。

現在の自衛隊では・捕虜になることについてどんな教育をしているのでしょうか。何も特別な教育はなされていないようです。ただ・自衛隊の編成が「士官と兵卒の割合がほぼ等しい」というようになっているのは・世界でもおかしな軍隊・実際に前線で戦って死ぬ兵が少ない・です。しかし・これも「有事の際の徴兵を前提にしている」と考えれば・合理的な制度と言えるかも知れません。

かつての徴兵制度は「国を守るのが国民の義務」としていながら・現実には「外征軍=侵略軍」でした。それは・天皇制の考え方からすると・ひとつの帰結だったのです。

現在こそ「歴史から学ぶ」ということが大切です。「民主主義の世の中だから・過去のようなことにはならない」というのは本当でしょうか。少数意見を尊重しない民主主義は・とても危険なのです。

昨日・最後の離任式が行われました。いつもながらの「涙」の式でした。ボクは・ちょっとうらやましかったです。来年は離任式はなく・最後に残った教師は・ひっそりと消えゆくのみだからです。

最近職員会議で「負け」続けの 丸山秀一

kasetsu.maruyama@nifty.com

典拠文献

- 帝国陸軍「軍隊手帳」復刻版 発行所 発行年 不明
松下芳男『徴兵令制定史』増補版，五月書房，1981，もともとは1942年発行
ルース・ベネディクト『菊と刀 日本文化の形』講談社学術文庫 2005，最初の出版は1958
森木勝『カウラ出撃』今日の話題社，1972
ハリー・ゴードン著，豊田穰訳『俎上の鯉』双葉社，1979
森木勝『暁の蜂起 豪州カウラ収容所』国書刊行会 1979
大江志乃夫『徴兵制』岩波新書，1981
中野不二男『カウラの突撃ラッパ』文春文庫，文藝春秋，1991，単行本は，1984
三国一朗『戦中用語集』岩波新書 1985
山中恒『子どもたちの太平洋戦争』岩波新書，1986
高原希國『カウラ物語』自費出版，1987
御田重宝『東部ニューギニア戦 全滅篇』講談社文庫 1988
東京裁判ハンドブック編集委員会『東京裁判ハンドブック』青木書店 1989
板倉聖宣ほか『日本の戦争の歴史』仮説社，1989

永瀬隆ほか『カウラ日本兵捕虜収容所』青木書店 1990
粟谷憲太郎『東京裁判への道』NHK 出版 1994
粟谷憲太郎ほか『戦争責任・戦後責任』朝日選書 1994
山田真美訳，ハリー・ゴードン『生きて虜囚の辱めを受けず』
清流出版 1995
ジョン=G=ルース『スガモ尋問調書』読売新聞社，1995
加藤陽子『徴兵制と近代日本』吉川弘文館 1996
秦郁彦『日本人捕虜』上下，原書房 1998
喜多村理子『徴兵・戦争と民衆』吉川弘文館 1999
河野 仁『“玉碎”の軍隊、“生還”の軍隊 日米兵士が見た太
平洋戦争』講談社選書メチエ 2001
吉田裕『日本の軍隊』岩波新書 2002
一ノ瀬俊也『明治・大正・昭和 軍隊マニュアル 人はなぜ
戦場へ行ったのか』光文社新書 2004
板倉聖宣「週刊朝日百科 94 日本の歴史 近代 I-4 学校と試
験」新訂増補 2004,朝日新聞社
ウルリック ストラウス『戦陣訓の呪縛 捕虜たちの太平洋戦
争』中央公論新社,2005
山田真美『ロスト・オフィサー』スパイス 2005
NHK 番組「カウラの大脱走」2005

参考文献

小松原亮『捕虜第1号』文庫社 1946
映画「戦場にかける橋」デビッド・リーン，1957
浅田晃彦『秘録 カウラの暴動』金剛出版 1967 小説
小山俊一「カウラの死臭」『試行』No.11，試行出版部 1968

映画「戦場のメリークリスマス」大島渚，1983

土屋康夫『カウラの風』KTC 中央出版 2004



入隊する兵士の見送り式

かなりの金がかかったという。